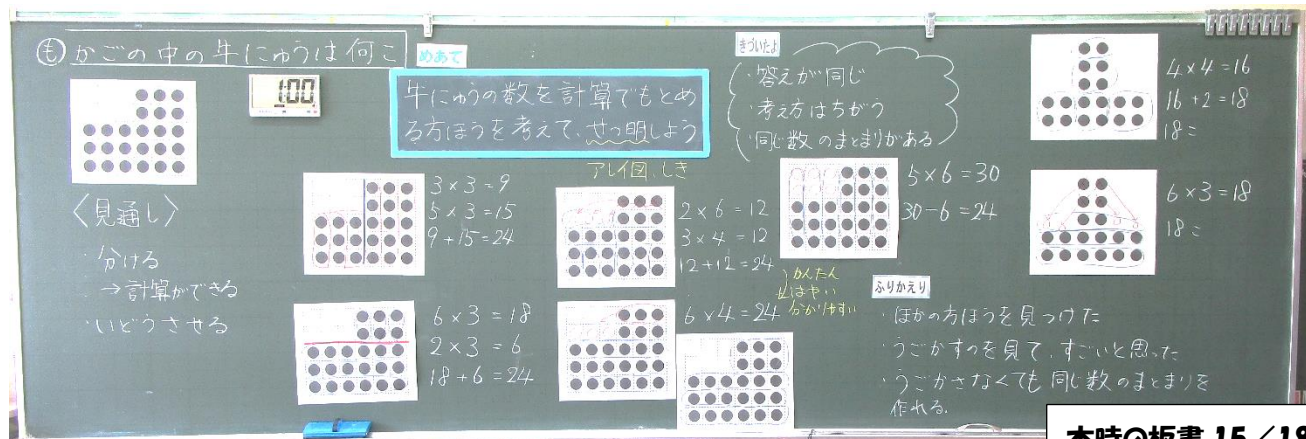
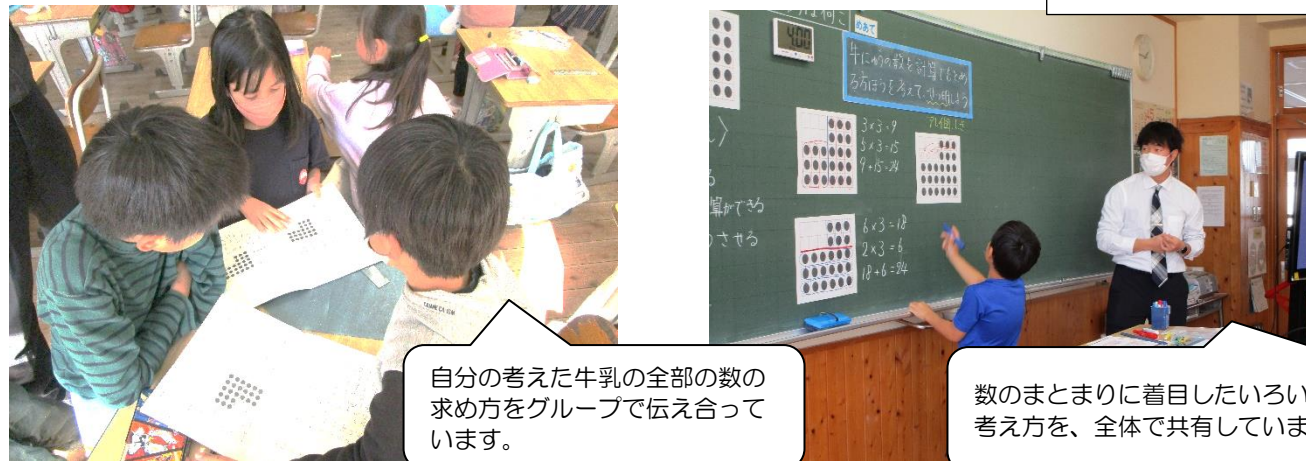


11月29日(水)は、橋詰先生による算数科の研究授業でした。本単元は、6、7、8、9、1の段の九九について前単元での乗法に関する性質やきまりなどを用いながら、九九の構成を考え、乗法九九を確実に唱えることができることをねらいに学習を行ってきました。本時は、乗法九九を総合的に活用して、具体的な場面の問題に適用することを通して、九九の理解を深めていく学習でした。本時の授業と事後研究の様子をお知らせします。

単元名 「九九をつくろう(かけ算(2))」(東京書籍) 全18時間
2年2組 橋詰 旺昇 先生
本時の目標：乗法九九を総合的に活用して、ものの数の求め方を、かけ算を用いて解決できるように工夫して考え、説明することができる。
本時における見方・考え方：同じ数のまとまりに着目して、図と式とを関連付けながら考えることができる。



本時の板書 15/18



自分の考えた牛乳の全部の数の求め方をグループで伝え合っています。

数のまとまりに着目したいいろいろな考え方を、全体で共有しています。

橋詰先生による授業の振り返り

児童から出た考えを整理した板書づくりや明確な目的(ゴール)のあるペア学習(対話)、児童のつぶやきを繋ぎ思考が途切れない授業の流れ、分からずに困っている児童の見取りと配慮、全体解決での効果的なICT活用、本時の目標をしっかりと理解した適用問題の工夫などの改善点が挙げられたので改善していきたい。

授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習活動の設定**
 - 子ども達が、主体的に様々な方法で求めることができ、友達がどのように考えたのかよく見たり、発表したりすることができていた。
 - 子どもの考えからは出なかった「全体から引く」という考えを提示することで、子ども同士で考える対話の活性化につながっていた。
 - ▼最初のグループの対話が、ノートを見せることだけになっているグループがあったため、何のために対話をさせるのか、何を対話させるのか考えておく必要がある。
- 2 児童が本気になる問題や課題の工夫**
 - 給食時の牛乳の数をとり上げ、日常生活と結び付けた学習課題となっていてよかった。
 - 牛乳の数の写真を提示しておくこと、写真とアレイ図が同じであることを確認することで課題解決の見通しをもたせることができていた。
 - ▼めあてとまとめの整合性はどうか。
 - ▼九九を総合的に活用し、具体的な場面の問題に適用することをねらいとしているため、終末の適用問題についても日常の生活場面の問題で考えるとよかった。
 - ▼全体で子どもの考えを説明する場面で、ICTを活用して子どものノートを写真に撮り、提示しながら説明させてもよかった。
- 3 「数学的な見方・考え方」を働かせるための手立てや働きかけ**
 - 事前の教材研究、学習指導案検討会の中で授業の準備や構想が練られていたことがよかった。
 - 子ども達が、数のまとまりに着目して様々な考えを出したり、アレイ図と式を照らし合わせて考えたりすることができていた。
 - ▼全部の数24個と答えが出た時に、本当にそうなのか1度確かめておくよかった。
 - ▼全体共有の子どもが友達の考えを説明する中で、違うものになっていたり、取り上げた子どもの考えを生かしたりすることが十分でなかったため、子ども達の考えを見取ることや、よいものだけを取り上げるのではなく、間違った考えも取り上げながら考えさせていきたい。
 - ▼子どもの発言やつぶやきを拾い、図と結び付けながら全体で共有したり、板書に整理したりしながら展開できるとよかった。
 - ▼様々な考えから「気付いたこと」ではなく、「同じところ」や「ちがうところ」を視点にすると、よりねらいにせまることができたのではないかな。
 - ▼児童から出た様々な考え方を「分ける」「移動する」「全体からとる」など、全体で整理できるとよかった。

橋詰先生の研究授業を通して、子どもの考えを見取り、子どもの発言やつぶやきをつなげ、全体に広げられるように学習展開を行っていかねばならないと改めて思いました。研究主題の「主体的・対話的で深い学び」につながる大切なところになりますので、今後の研究授業においても、子どもの考えや発言など子どもの姿から考えていきたいと思えます。

